

古典享受の実態 (2)

——西鶴の作品のばあい——

梅 下 敏 之

目次

(一) はじめに
(二) 対象

(三) 教材

(四) 実践と反省

(五) 古典享受の実態

内おわりに

付 調査用紙

生徒の読後感想文

(一) はじめに

この報告は昭和三十七年八月五日第三回広大教育学部国語教育学会で発表したもの(注)の続編であり、またその翌年八月十八日前記第四回の学会で口頭発表したものに手を加えたものである。

二編とも三十七年度の実践により調査したもので、調査の目的は、定時制用の教科書はなく、全日制のものを使用しているが、実際に四年生用はどうしたらよいかという問題や、現に四年生に古典の教材を与えているが、生徒はそれをどの程度理解し、どのように享受し、又何を求めているかという問題に少しでも答えを出してみたいと思つたことである。

注 前記学会誌 国語教育研究第八号 所載

(二) 対象

(1) 定時制夜間四年 一二八名(男子八八名 女子四〇名) A、B、Cの三組。右の外調査の時欠席したのも二三名(十五%)。生徒の約三割は進学希望

(2) 生徒の年令は次の通りである。

(3) 教育課程は次の通りである。②が私の担当した時間 ▲2は選択の時間(文学史)で一部の生徒が他の先生から習っている。

年令	人数
18才	70
19	46
20	22
21	8
22以上	3
不明	2

(四月一日現在)

教育課程

	甲	乙	漢	計
1年	3		2	5
2年	2		2	4
3年	2	2		4
4年	②	2▲		4
計	9	4	4	17

(三) 教材

教科書は中央図書刊 遠藤嘉基編「古典文学」 V町人の文学

西鶴作品集

初午は乗ってくるしあはせー日本永代蔵 (一〇六ページー一〇ページ)

〇ページ)

小判は寝姿の夢ー世間胸算用(一一一ページー一一六ページ)

(四) 実践と反省

(1) 指導期間 九月十五日から十月二三日まで。毎週二時間。一時間は四五分授業。予定をはるかに越えたが、運動会の練習で授業がカットされたためである。

(2) 時間配当は「初午は乗ってくるしあはせ」に導入を含めて三時間、「小判は寝姿の夢」に四時間、調査一時間、計八時間である。

(3) 指導案 一例

十月十一日 B組 指導案

イ隣人愛をみる。

ロ亭主の気持を考える。

ハ金よりか愛情に生きようとしているのか。金よりか死を選ぶのか。

ニ永代蔵では、お金の価値を高く評価し、分限者、長者になる方法を教えた。胸算用では、大晦日に借金に苦しめられる庶民の悲惨な状態を同情的に書いている。

ホ序文では家業に精出せといっているのに、本文では貯甲斐ない男を同情的に書いているのはなぜだろう。貯甲斐ない男の例をあげて、その悲惨さを教えようとして、かえってその男を同情的に書か

ざるをえなかった作者の心。庶民に対する作者の愛情。永代蔵との比較。

以上はメモ程度の指導案であるが、この年から毎時間分書くようになり、習慣となったが割合よく出来ている一例である。この指導案にあるように、毎時間何かの問題をもって教室に臨んだ。私自身どう解決していいのかわからないまま、教室で生徒の解釈・意見・感想に耳を傾けることも度々であった。

(4) 反省 次に生徒の授業の感想を掲げる。

後に添付しているアンケート用紙の末尾に書かせたものである。私としては特にうまくいった授業でもなく、むしろ教材からくる厭な空気の流れた時もあった程度の普通の授業であった。

(4) 理解

よくわかった	7	15	22	早い	11	2	13	
普通	78	23	101	普通	64	35	99	
わからなかった	3	0	3	遅い	4	3	7	
(未記入2)				(未記入9)				
男	女	計	(回)	進	度	男	女	計

(4) 印象

深まった	26	14	40
普通	51	16	67
浅かった	7	3	10
(未記入11)			
男	女	計	

(4) 古典享受の実態

○アンケート用紙は後に添付。

○調査は十月二十日から二十三日にかけて国語の授業や自習時間を利用して書く。

○記入の方法は、各質問の項目に一つだけ○印をつけ、必ず理由を書くこと。理由の例が書いてあるがこれにこだわらないこと。

○無記名だが、男女の別は必ず明記。出席番号は書くことが望ましい。アンケートに不明な点があると、本人にただしやすから。以上の注意を言って、教科書やノートを見ながら記入させた。

(1) 西鶴の文学は

項目	男	女	計	%
おもしろかった	42	31	73	58.9
普通であった	6	43	49	34.7
おもしろくなかった	7	1	8	6.5
(未記入4)				

「おもしろかった」が五八・九%を占めている。一学期に学習した平家物語のばあいは五四%で西鶴の方が少し高い。男女の差は平家、西鶴共に女子の方が「おもしろかった」と答えたものが多い。

△理由▽「おもしろかった」「普通であった」(肯定的)

イ 当時の世相や社会状況に	興味関心があつたから	30	9	39
ロ 登場人物の考え方や生き方に	ク	21	17	38
ハ 作者の人生観社会観に	ク	25	9	34
ニ 表現や文章に	ク	4	6	10
ホ 作品の筋がおもしろかったから	ク	4	6	10
ヘ その他	ク	4	6	10
男女計 %				

「おもしろくなかった」「普通であった」(否定的)

	男	女	計
イ 遅刻欠席がちでよくわからなかったから……………	11	0	11
ロ 古文になれておらずおもしろくなかったから	5	0	5
ハ 内容が自分にあわずおもしろくなかった……………	3	0	3
ニ その他……………	3	0	3

○理由未記入者男子に11名

理由の一位は「当時の世相や社会状況に興味関心があったから」となっているが、平家で一位を占めたのは、西鶴の「ロ登場人物の考え方や生き方に興味関心があったから」であった。平家では「イ当時の世相：」が「ロ登場人物：」に比し三分の一であり、理由第四位を占めたに過ぎない。男女の差をみると女子は「ロ登場人物：」に多く、男子は「イ」「ハ」に多い。男子は作品から少し離れて客観的にみるのに対し、女子は作中人物に同化していき、人間の内面を追求しようとする傾向がある。これは平家でもそうだった。(2)どちらにより興味があったか。

項	目		計	%
	男	女		
初午は乗ってくる…(永代蔵)	20	6	26	21
小判は寝姿の……………(胸算用)	64	34	98	79

(未記入4)

胸算用の方が七九%で圧倒的である。

△理由V

男女計

○永代蔵

イ 西鶴の金銭観について興味があったから……………	8	3	11
ロ 才覚により金を得る方法に……………	4	1	5

ハ 金を儲けるだけでなく

借金をきれいに返す気持に…………… 3

ニ その他…………… 7

○胸算用

イ 当時の庶民の苦しい生活と愛情について……………	22	13	35
ロ 夫婦の生活に金よりか	8	10	18
ハ 作中の人物にあたたかい愛情が大切だと思った点……………	2	4	6
ニ 金が第一か愛情が第一か……………	3	2	5
ホ 貧乏生活が自分の生活に似ているので……………	4	0	4
ヘ 封建社会での町人の生活がわかったから……………	4	0	4
ト お金に対する人間の弱さについて……………	2	0	2

(以下略)

西鶴の作品に興味があるのは「庶民の苦しい生活がわかる」とか「愛情」について書いてあるからで、「金儲け」を書いてあるからでないことがはっきりした。「小判は…」は胸算用の中でも珍しく夫婦の愛情が出てくるところだが、これが生徒の興味関心をつないだのである。

(3)どの人物に心を惹かれたか

項	目		男	女	計
女房(小判は寝姿……………)	35	26	61		
亭主(……………)	36	14	50		
網屋の男(初午は……………)	23	12	35		
人置のかか(小判は……………)	8	2	10		

登場人物は全部で四人で「小判は……」の女房、亭主に人気がある。

△理由▽

○女房

イ 自己を犠牲にして奉公に 出る献身的な態度…………… 9 男女計 17 26

ロ 享主をよく理解している 母性的な女性…………… 11 0 11

ハ 愛情の深さ…………… 3 5 8 11 (以下省略)

○亭主

イ 愛情のある点…………… 11 7 18

ロ 最後に妻を取り返しに行く所…………… 5 6 11

ハ 人間の弱さがよく出ている…………… 7 1 8

ニ ファイトを望む…………… 2 2 4 (以下省略)

○網屋の男

イ アイデアがよい…………… 13 7 20

ロ 借金を返済する正直な商人…………… 4 4 8

ハ 経済的観念が発達…………… 3 3 6

ニ がめついけれど人ざわりがよい…………… 3 0 3 (以下省略)

○人置きのかか

イ 当時の町人の金に対する 考え方がわかって…………… 2 0 2

(以下省略)

男女の差が女房にみられる。女子は「イ自己を犠牲にして奉公に出る献身的な態度」が多いのに対し男子は、「ロ亭主をよく理解して

いる母性的な女性」に多い。又亭主では男子に「ハ人間の弱さがよく出ている」をとりあげている者が多い。
(4)他の所をいつか読みたいと思えますか。

項目	男	女	計	%
思う	52	31	83	
思わない	23	7	30	
				26.673.4

(未記入15)

他の所をいつか読みたいと思うものが七三・四%いる。

平家では七七%が思うであった。大差がない。

△理由▽

○思う

イ 当時の風俗世相を知りたいので…………… 30 男女計 10 40

ロ 作者や当時の人々の 人生観を知りたいので…………… 22 17 39

ハ 現代の社会と比較してみたい…………… 2 1 3

ニ 作者や当時の人々の 金銭観について知りたいので…………… 2 0 2

ホ その他…………… 7 (例 作者のもの見方の変化を知りたいので)

○思わない

イ 他の人の作品を読んだ方がまし…………… 3 1 4

ロ その他…………… 5 (例・金銭観があさましい・作者の人生観とあわない・愛情をテーマにしていなから・人間性に触れていないから・非人間的なので)

思うてイ、ロが並んでいる。平家では、「ロ作者や当時の人々の……」

が三九%で一位、源平の盛衰など歴史的なことが知りたいたいで、が二位で二七%であった。質問(1)「おもしろかった」の理由一位一イ当時の世相……と考え合わせて、西鶴の作品は風俗世相がよくかかれているといえよう。「風俗小説論」(河出書房の市民文庫)で中村光夫は丹羽文雄の「当世胸算用」を風俗小説だと言っているのに通ずる。西鶴の作品も風俗小説だといえよう。読みたいと思つ%では差がなくても読みたい理由で差が平家との間にみられる。「思わない」理由が「金銭観があさましい」などはっきりしているのも注目される。

(5)この作品を読んで

項目	男		女		計
	人数	%	人数	%	
大変考えさせられた	16	16	9	9	25
考えさせられた	57	57	23	23	80
考えさせられなかった	11	11	7	7	18
その他					2

(未記入3)

「考えさせられた」以上が八四%で、平家の八五%と大体同じである。

入理由V

(A) 金銭問題	男女計
イ 西鶴の金銭観を嫌ったり反対するもの……	23
ロ 一応肯定するものに……	16
ハ 対して否定とも	39

イ 西鶴の金銭観を嫌ったり反対するもの…… 7 3
 ロ 一応肯定するものに…… 5 3 8 10
 ハ 対して否定とも 3 4 7
 肯定ともはつきりしないもの…… 3 4 7

ニ 才覚による金儲けについて
 (否定・肯定はつきりせず) …… 5 2 7
 ホ 「家職に励め」説に共鳴 …… 1 2 3
 ヘ その他 …… 4

(B) 愛情問題	男女計
イ 貧乏と愛情について ……	36
ロ 愛情の大切なこと ……	22
ハ 金がなければ愛情 ……	4
ばかりでは生活できない ……	26
その他 ……	19
自分がそうならどうするか ……	58

ニ その他
 (例) 自分がそうならどうするか …… 5
 イ 貧しい庶民社会について …… 3 5 8
 ロ 封建社会でも庶民は 助けあい心が通じている …… 1 3 4
 ハ その他(例・現代生活と比較してみたい) …… 1 3 4
 ・ 作者は富の不公平な分配に気付いている)

(C) 社会問題	男女計
イ 貧しい庶民社会について ……	26
ロ 封建社会でも庶民は 助けあい心が通じている ……	11
ハ その他(例・現代生活と比較してみたい) ……	37

愛情問題に「考えさせられた」ものが多い。西鶴の金銭観は嫌われている。江戸時代の貧しい庶民生活、愛情生活が書かれている「小判は……」で高校生に興味がつながっているのだ。西鶴の作品の価値は「小判は……」によって支えられている。これは質問(2)どちらに興味があったかで「小判は……」の方が約八割を占めることと相応する。

(6) 西鶴の文章は

項目	数
きにいった	79
きにいらぬ	12
わからない	24
普通	4

(未記入9)

△理由V (注) 普通はアンケートになかったが生徒が書き加えたもの。

○きにいったもの

- イ ニューモアとペーソスが漂っていて…………… 29 人数
- ロ 人の心理描写や性格描写が上手…………… 29
- ハ 平易でわかりやすい…………… 19
- ニ 会話が生きている…………… 16
- ホ テンポが早くてよい…………… 6
- ヘ 簡潔でよい…………… 4
- ト その他…………… 1
- キにいらぬもの
- イ 文章が長い…………… 4
- ロ その他…………… 3

文章がきにいった、きにいらぬという質問そのものが、適当でないと思いつつも、他に名案も浮かばないまゝ尋ねてみた。平家ではきにいった―70 きにいらぬ―2 そんなこと思わない―58 であった。「わからない」も「そんなこと思わない」に入れるよう指

導していたから、西鶴で「わからない」が減ったと言えよう。又「きにいらぬ」がふえている。調査によって文章意識が高まったと言えよう。

(7) この西鶴の作品を学習して

項目	男女計	
	男	女
よく理解できた	7	15
普通	78	23
よくわからなかった	3	0
	101	22

(未記入2)

この質問は私の指導の内容なり反省につながるもので、(四)実践と反省にも出した。平家と比較すると、平家ではよく理解できた21 普通93 よくわからなかった17 である。よくわからなかったがこのたび減少している。男子の方が点が辛いというか正直であるというべきか、よく理解できたが少ない。

△理由V

○よく理解できたもの

- イ 登場人物(当時の庶民)の 考え方生き方がわかったから…………… 4 男女計
- ロ 当時の庶民の風俗世相がわかったから…………… 1 6
- ハ 作者の人生観や社会観が理解できたから…………… 3 3
- 普通と答えたもの
- イ 登場人物(当時の庶民)の 考え方生き方がわかったから…………… 22 8
- ロ 当時の庶民の風俗世相がわかったから…………… 22 8
- ハ 作者の人生観や社会観が理解できたから…………… 5 3

- イ 登場人物(当時の庶民)の 考え方生き方がわかったから…………… 22 8
- ロ 当時の庶民の風俗世相がわかったから…………… 22 8
- ハ 作者の人生観や社会観が理解できたから…………… 5 3

ニ 古文に慣れていないため…………… 10
 ホ 遅刻欠席が多かったため…………… 9
 ヘ 文法がわからなかったから…………… 2
 ト その他…………… 1

○よくわからないもの

イ 遅刻欠席が多かったから…………… 2
 ロ 文法がわからなかったから…………… 1

理由では、イ登場人物の考え方…、ロ当時の庶民の風俗…、ハ作者の人生観…、の三つが理解のパロメーターとして並んでいる。平家の時、これらが大きく出てきたので、このアンケートに選択肢として出したが、もしそれに影響されているとしたら問題である。よく理解できたものと普通のものとは、同じ基準で答えているところから、生徒の頭に基準が定着しつつあるのかとも思われる。
 (8)読んでいくのに困難な点があったと思うが

項	目	人数
	文の途中で主語が変わる	49
	文が連用中止法などで長く続けているので	39
	平安朝文法と違う点に	20
	古語に	20
	述語など省略した書き方に	15
	雅俗折衷体の文に	6
	その他	7

私の予想した通りであった。平家では質問に難点があったので値が薄く比較できない。
 (9)文学として

項	目			計
	男	女	%	
大変すぐれていると思う	7	2	9	56.8
すぐれていると思う	41	21	62	22.4
普通と思う	21	7	28	5.6
すぐれていないと思う	5	2	7	13
わからない	13	6	19	15.2

「すぐれていると思う」以上が五六・八%である。平家では六八%で差は大きい。「すぐれていない」が七名に比し、平家では一名である。平家の方が明らかに高く評価されている。平家は「殿上の闘討」と「祇王」であった。風雲の中に生きる英雄と女性の生き方が書かれていたが、人間の生き方を真正面から考える平家の方が、文学として高い価値があると判断されたわけである。「わからない」が平家の二五名から十九名に減少したのも(6)文章の調査と同じく調査の繰り返しで文学観が高められたといえよう。

△理由V

○「大変すぐれている」「すぐれている」「普通」(肯定的)

イ 当時の庶民社会の

風俗世相がよくわかるから…………… 22

ロ 作者の人生観や世界観がよくあらわれているから…………… 17

よくあらわれているから…………… 4

男女計

12

34

ハ	登場人物の心理描写がすぐれているから……	14	7	21
ニ	当時の庶民の生き方考え方がわかるから……	13	5	18
ホ	読んだあと充実感があつたから……	5	7	12
ヘ	表現がすばらしいから……	3	1	4
ト	リアルに描いているから……	2	0	2
チ	文学史で有名だから……	1	0	1
○	「すぐれていない。」「わからない」「普通」〔否定的〕			
イ	文学とは何かわからない……	4	2	6
ロ	他の作品も読まなければわからない……	2	0	2
ハ	突込みが足りない……	2	0	2
ニ	人物が類型的である……	2	0	2
ホ	その他			

(例・金のない苦しみが本ものでない)……………8

すぐれている理由をみるとイ当時の庶民社会の風俗……が一位である。質問(4)で西鶴の作品は風俗小説だといったが、ここからも言えよう。平家では一位が「心理描写がすぐれている」で、世相風俗は第五位であった。「すぐれていない」の理由が、平家に比して鋭くなつたが、西鶴の作品にそれだけ難点があると言えると同時に、生徒の眼が肥えてきたとも言えよう。

胸に残つたことばがあつたら書きなさい。

イ	女房取り返して涙で年を取りける(世)……	7	11	18
ロ	それは銀がかたき、			
	あの娘は死に次第(世)……………	13	3	16
ハ	これ(注 金銀のこと)			

二親のほかには命の親なり(日)……………5 6 11

ニ 親はなけれど子は育つ、
うち殺しても死なぬものは死にませぬぞ、
ごていさまさらば(世)……………6 2 8

ホ 手遣き願ひを捨てて、近道に

それぞれの家職を励むべし(日)……………4 4 8

ヘ 福德はその身の堅固にあり(日)……………4 2 6

ト 人は実あつて偽り多し(日)……………5 1 6

チ 天道もの言はずして国土に恵み深し(日)……………3 2 5

リ 士農工商のほか出家神職に限らず
始末大明神の御託宣にまかせ

金銀をたむべし(日)……………4 1 5

マ おまんさらばよ(世)……………1 4 5

ル 天地は万物の逆旅、光陰は百代の過客、
浮世は夢まぼろしといふ(日)……………2 3 5

(以下省略)

イ 女房取り返して……は「小判は……」の最後の文で討論したところである。ロそれは銀が……は人間の非情さが出ている文である。傾向としては口調のいい文があがっている。平家でもそうだった。

(四) 一番強く感じたことは

金銭

イ	この世でお金が大切であること……………	11	人数
ロ	時により愛情よりかお金が大切である点……………	6	
ハ	お金により人間性が傷つけられることがある点……………	4	
ニ	質素儉約生活の大切さ……………	2	
ホ	動かなければお金は手に入らない……………	1	

生活

イ 当時の庶民の苦しい生活を知つたこと……………7

愛情

- ロ 自分の生き方を反省させられた…………… 4
- ハ 人間の弱さ、あさましさを知る…………… 2
- ニ 幸福な社会を築きたい…………… 1
- ホ 善意のある人は生活能力が低い…………… 1
- イ 愛情は大切である、金では買えない…………… 7
- ロ 夫婦の愛情の美しさ…………… 2
- ハ 愛情と他人を信ずる大切さ…………… 1
- ニ 愛情至上主義では物足りない…………… 1

作品

- イ 表現力、写真描写のすばらしさ…………… 4
- ロ 作品の比較により本の価値がわかる点…………… 1
- ハ 現代にも通用する点…………… 1

作者

- イ 町人にとってお金为社会で…………… 3
- ロ 現実的にものを考えるところ…………… 1
- ハ 庶民的な人である…………… 1
- ニ 作品ごとに成長している点…………… 1
- ホ 神仏をたのむにしても人事を尽くしている…………… 1
- ヘ 人間愛の薄い人…………… 1
- ト 眞の貧乏生活を知らず、どこか貧乏生活を楽しそうに書いている…………… 1
- チ 金に毒された社会をよく書いて…………… 1

西鶴の意図通り、お金が大切とか 庶民の苦しい生活を知ったとか

があがっている。日本史で学ぶより、文学作品を通じて知る方が、風俗世相がよくわかるという生徒もいたが、当時の作品で確かめた自信が言わせるのであろう。作品の比較により本の価値がわかるのか、作品ごとに成長している（作者）というのなどは二つの作品を続けて学習した成果だろう。作者では、現実的にものを考えるところ、人間愛の薄い人、眞の貧乏生活を知らず、どこか貧乏生活を楽しそうに書いている、など西鶴の人間性に鋭いメスをあてている。これなど定時制の生徒ならではといえるであろう。

②疑問点があったら書いて下さい。

イ 解釈上の疑問………

人数

- ロ 涙で年をとりける…………… 4
- ハ 亭主の態度が不可解…………… 4
- ニ 作者は金と愛情とどちらが大切だと思っているか…………… 3
- ホ 作者は金銭を絶対視して…………… 2
- ヘ 封建社会の中で圧迫をうけないで暮しているようだが本当か…………… 2
- ト その他（省略）……………
- イ 金銭と愛情とはどちらが大切だと作者は思っているのか…………… 10
（金銭観だけ、愛情だけの追究をも含む）
- ロ 登場人物の心理追究…………… 7
- ハ 作者の他の作品や考え方、生活環境、つめたい態度…………… 6

③ unnecessary 説明があったり、もっと深く掘り下げて問題にしたかったところ

ニ	江戸時代の町人生活の奥態を知りたい	4
ホ	「涙で年をとりける」の意味追究	3
ヘ	江戸時代における各階層の金銭観	1
ト	現代人の金銭観との比較	1
チ	他国者に対する人々の心理	1
リ	当時社会思想があったかどうか	1
ヌ	当時の他の作家作品との比較	1
ル	主観が入ってもいいから	1
×	主題を明確化してもらいたい	1
×	説明にくだいところがあつた	1

(以下略)

疑問点があつたら書いて下さい—はアンケートでは(Ⅱ)になっていたが、(Ⅲ)不必要な説明があつたり、もっと深く掘り下げて問題にしたかつたところ、と重複するところもあるので、この報告では並べてみる。

(Ⅲ) 金銭と愛情とはどちらが大切だと作者は思っているのか、は授業で話し合った点である。(Ⅱ) 一番強く感じたことで「この世でお金が大切である、とか愛情は大切である・お金では買えない」などは、自分なりの解答を出した生徒であるが、依然として問題として残つた。ロ、ハ、ニの人物の心理、生活環境、町人生活の奥態など深く読む程問題として浮かんでくる事項であらう。抱いた問題を解こうとして西鶴の他の作品や 近世のものを意欲的に読んでくれれば幸いである。ホ涙で年をとりける—が(Ⅱ)疑問のところで多いが「小判は……」の最後の文で話し合いの問題としたところである。

一生徒の書いたものを引用してみる。「親子三人が新年を迎えるに

あつたての複雑な涙であつたように思うが、みんなの意見を聞いてみると、私自身わからなくなった。」(女)

まとめ

以上の調査から言えるものをまとめてみると、
1 女子は人間の心理的な面・内面的な面を、男子は人間の環境・外面的な面を問題にする傾向がある。

2 西鶴の作品から世相風俗がよくわかる。その点から風俗小説だと言えよう。

3 人生問題を正面からとり扱つた平家の方が、風俗小説である西鶴の作品よりか、高い価値があるとみられている。

4 金儲けを教えた永代蔵よりも、庶民の苦しい生活を書いた胸算用の方が生徒の興味関心を惹いている。

5 西鶴の金儲けの教えはむしろ嫌われている。

6 作者の意図になかつた愛情の問題を「小判は……」から引き出し、大きな問題として考えていることから、生徒は古典の中から現代に通ずる問題を探しそれを考えようとしている。平家では「人間の生き方」を求めようとしているという結論が出たが、この調査と共通するところはこの点であらう。古典教材もそういった面が配慮されねばならないし、教師も絶えず念頭においておく必要がある。

7 同じ作家の制作時の異なる作品を並べて学習することにより、作者のものもの見方考え方の変化を知り、ひいては生徒のその成長にもなる。

8 調査の繰り返しで文章意識及び文学鑑賞眼が深まる。

おわりに

朴樸なアンケートで実施したため整理しても価値がないのではな
いかと思ひすごして統計の途中から放棄していたが一つでも結論が
出てくるとファイナルが湧くことを知った。土井忠生先生が捨てるこ
とを知らなければならぬとおっしゃったこと、金子金治郎先生の
事実を提供して識者の展開に委ねようというお考えなど絶えず頭に
おいた。それで統計から何も引き出せなくても、そのまま載せた。
口頭発表の時祇園高校の北岡先生から、アンケートの答えの用意に
ついて質問があったが、同じ質問が平家の時もあり、この種の調査

の一番大きな困難点であろう。また、三原高校の野宗先生から、こ
の結論を今後どう生かしていくかという質問があり、うかつにもそ
こまで考えていなかったので反省させられた。指導方法にきわだつ
て影響を及ぼすことは出来ないが、指導案にこの得たものが生きつ
つあると信じている。平家の時は思わなかったが、継続とは力な
り、拙いものでも重なれば何か価値がでてきそうに思ひ出した。

昭和三八年九月七日稿

「西鶴の文学」について

アンケート

番 男 女

(1) 西鶴の文学はおもしろかった。理由(例)

普通であった。
おもしろくなかった。

作者の人生観社会観に興味関心があったから。

当時の世相や社会状況に

登場人物の考え方生き方に

表現や文章に

作品の筋がおもしろかったから

古文になれておらずわからなかったから

遅刻欠席がちでよくわからなかったから

(2) 次の二つの作品のうちどちらにより興味がありましたか。

日本永代蔵 理由(例)

世間胸算用 西鶴の金銭観や金儲けの教えについて——

(3) どの人物に心を惹かれたか。一人ないし二人に○をして理由を書きなさい。

永代蔵の網屋の男 理由

胸算用の 亭主

女房

ク 人置のかか
ク 祖母

(4) 他の所をいつか読みたいと思えますか。

おもう

おもわない

理由(例)

当時の風俗世相が知りたいので
西鶴の人生観世界観が知りたいので

(5) この作品を読んで

大変考えさせられた

考えさせられた

考えさせられなかった

理由(例)

ク 金儲け方法論に――

ク 貧乏と愛情について――

ク 貧しい庶民社会について――

(6) 西鶴の文章は

きにいった

きにいらぬ

わからない

理由(例)

平易でわかりやすい
会話が生きている

心理性格描写が上手

テンポが速くてよい

ユーモアとペーソスが漂っていて
簡潔で

(7) この西鶴の作品を学習して

よく理解できた

普通 通

よくわからなかった

理由(例)

作者の人生観や社会観が理解できたから

当時の庶民の風俗世相がわかったから

登場人物(庶民)の考え方生き方がわかったから

古文になれないため
文法がわからなかったから

遅刻欠席が多かったから

(8) 読んでいくのに困難な点があったと思うが

主語の交替に理解で困った

連用中止法などで文を長く続けてるので

述語など省略した書き方に

平安朝文法に忠実でないので

雅俗折衷体の文に

古語に

その他

(9) 文学として

理由(例)

大変すぐれていると思う

すぐれていると思う

普通と思う

すぐれていないと思う

わからない

作者の人生観や社界観がよく表われているから

登場人物の心理性格描写がすぐれているから

表現がすばらしいから

当時の庶民社会の風俗世相がよくわかるから

〃 庶民の生き方考え方がわかるから

説んだあと充実感があったから

人物が典型的だから

文学とは何かわからない

文学に興味がないから

(10) 心に残ったことばがあったら書いて下さい。

(11) 疑問点があったら書いて下さい。

(12) この西鶴の作品を読んで一番強く感じたことは

(13) 授業の感想

○よくわかった

どこが

普通

わからなかった

○進度は

速い 普通 遅い

○印象は

深まった 普通 浅い

○その他

不必要な説明、もっと深く掘り下げて問題にしたかったところなど

なお「西鶴の作品を讀んで」というような題で感想文をどんなに短くてもいいから二十三日頃までに書いて出して下さい。

西鶴作品集を習つて

四 C 船津満里枝

「永代蔵」と「世間胸算用」はとてもおもしろかったと言える。この二つの小説を読んで考えさせられることが多く、まとまりがつかなくかつた位であつた。

さて「永代蔵」の方から感じたことを述べてみよう。ク始末大明神の御託宣にまかせ、金銀をたむべし。これ二親のほかに命の親なり。ク西鶴って何と嫌な人間であらう。お金が命の親だつて……この人の書いていることは何だらうと眉をひそめた。ところが良く読んでみると、一概に嫌とは言えなかつた。例えばク黄泉の用には立ちがたしくとかク手遠き願ひを捨てて近道にそれぞれの家職を励むべし、福徳はその身の堅固にありクなどはフンフンとうなづけた。

網屋の男が借り銭がもつて大金持になる話も、その男の目のつけどころがおもしろかつた。クこれ観音の銭たれば、いづれも失墜なく返納し奉るクとは苦笑である。人間のかくれた心を見たようでもしるいではないか。

ク網屋の子、総じて親の譲りをうけず、その身才覚にしてかせぎ出しクというところはチャラツとパールバックの「大地」を思い出させた。王爺はその身才覚にして無一文から大金持になつたが、その息子たちは親の譲り物でいいことをしようと思ひ、下り坂を転げ落ちていく破目になつたのである。何事も自分の手で切り開いて行かねばならないのだなあ、とある孤独じみた気持になつた。

全体として金儲けに關することである。

又うなずけるところがあつたとしても西鶴に対する私の気持は

(「こんな作家もいたのか」と思った。ところが次のク小判は寢姿の夢に移つた時、意外に思つと共に(あゝよかつた)と思つた。そして「永代蔵」より後に「世間胸算用」が完成したと知つてますます嬉しくなり、作家ばかりでない、人間はすべてこうでなければならぬ。前進だ 進歩だと感動した。

このク小判は……は当時金万能主義の経済状態の社会に於ての下層階級のみじめな姿が述べられている。実に悲しい物語りであるのにク涙で年をとりける。クという結びを讀み終へても私の心は沈んでしまふことはなかつた。それどころかユーモア的な匂いがして、心の中がほのぼのとさえた位である。不思議である。その原因はどこにあるのだろうか。知りたい。始め俳諧を志していたので、口調がよくてトントンと讀むことのできた文章自体にあるのだろうか。それとも西鶴が現実のみを書いて、考えなどを織りこまなかつたせいであらうか。又どん底に追い込まれた夫婦がついにお金に負けないで愛情を示し合つたという筋にあるのだろうか。

日本の讀み物と外国のそれとを比べてみると、日本のものは悲しいことを書いたら、とても陰惨な印象をうけるのであるが、外国のは悲劇を取り扱つていても何か救われるような感じをうけるのである。西鶴が外国のものに似せたとは思われないが、日本の文学に新しい芽をのばしたとは言えないであらうか。

ク涙で年をとりける。クと西鶴の実にうまい表現に私はほれほれした。このク涙クとは、手をとりあつて一つ屋根のもとで年をとることができると喜び合う夫婦の嬉し涙では決してないと思う。お金があつたら人並に年を迎えることができたろうにと貧乏人の切なさを泣く深であつたらう。西鶴はこの物語の中で儲けのない亭主を同情

もしもないが責めていないと思われる。別に批判的な事が書いてないからだ。

文章に於ては、やはり「連用中止法」が続いて息苦しい所があった。古文を読む時よく思うことであるが、いったいに古語は現代語に比べて、非常に意味深く、びたりとしたものがあると思う。この作品で目についたものはクあはれ、今年の暮れにその銀のかたまり欲しや々のクあはれ々とかクこちの人、こちの人々と女房が専主に呼びかけることはでもいかにも夫に従順な妻の優しい顔が思い浮べられる。

最後に読者としての立場から一歩退いて視界を広めて、この二つの読み物を眺めてみると（なあんだ、単にお金儲けと貧乏人との事実を述べているのみで、それに対して作者は少しも掘り下げていないではないか、これでは文学というものではない）と言えるかもしれない。しかし私は事実を述べているにすぎないけれども、その事実を述べている中に作者の人生観が溢れているように思う。

他にもお金のことを取り扱っている作品があったら読んでみたいと思う。そして西鶴のそれと比較してみたい。（完）

（注）本文は長いので抜萃した。本人がこれを改作して「広島県説書感想文コンクール―働く青少年の部」におくり、一等として昭和三八年一月十七日付の中国新聞に掲載された。

（広島県国泰寺高等学校）